

初めて語ることー私のパラダイム破壊

京都大学 山口 栄一 最終講義

記

話者 山口 栄一（大学院思修館・産連本部 教授）
日時 2020年3月13日(金)15:00～16:30
場所 京都大学百周年時計台記念館2階国際交流ホール



講演要旨

1998年以來20年余、私はイノベーション理論・イノベーション政策の社会科学的研究を行なってきました。かつて「科学技術立国」として世界を牽引した日本の科学とハイテク産業の凋落の起源を調べ、イノベーション・ダイアグラムの理論に基いて日本の科学とイノベーション復興に向けた具体的な処方箋を示してきたのです。

ところがふと思い返すと1998年まで行ってきた自然科学研究について一度もお話していないことに気が付きました。量子物理学と物性物理学の基礎について深い予備知識があるので、聞き手が面白いと思ってくれるところまで行くのは難しいと思い込んでいたようです。

しかしその純粋物理学研究の軌跡こそ、イノベーション・ダイアグラムを生むに至った必然的原動力です。そこで、この最終講義で「ヒツまぶし人生の第1部」に他ならない「私のパラダイム破壊」の物語・全5章を初めてお話します。専門用語は聞き飛ばして、謎に立ち向かう私の熱い思いと創発のプロセスをたっぷりと汲み取ってください。

最後に「ヒツまぶし人生の第3部」についてこれからの構想もお話いたします。

- 第1章 アンダーソン局在における電子相関効果の理論的研究 (1977～1979)
- 第2章 III-V族半導体における2次元電子系の実験的研究 (1979～1984)
- 第3章 III-V族半導体におけるDXセンターの理論的研究 (1985～1990)
- 第4章 III-V族半導体におけるDXセンターの実験的研究 (1987～1992)
- 第5章 常温核融合の研究 (1989～1998)

略歴

1955年、福岡市生まれ。1977年、東京大学理学部物理学科卒業。1979年、同大学院理学系研究科物理学専攻修士修了、理学博士(東京大学)。1998年まで、NTT基礎研究所主幹研究員。その間、米国ノートルダム大学客員研究員として1984年より1年間、米国サウスベンドに在住。さらにフランスIMRA Europe 招聘研究員として1993年より5年間、南仏コート・ダジュールに在住。2003年まで、21世紀政策研究所研究主幹。2014年まで、同志社大学大学院教授、その間、2008年より1年間、英国ケンブリッジ大学クレアホール客員フェロー。2014年より現職。1998年より2018年にかけて、5社のベンチャー企業を創業。